

東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議
汚染水処理対策委員会（第16回）

議事概要

日時：平成27年7月29日（水）10：30～12：30

場所：経済産業省 別館3階 312共用会議室

出席者：

○汚染水処理対策委員会

委員長：大西 有三	関西大学 特任教授、京都大学 名誉教授
委員員：出光 一哉	九州大学大学院 教授
米田 稔	京都大学大学院 教授
山本 一良	名古屋大学 参与・名誉教授、名古屋学芸大学 教授
藤田 光一	国土交通省国土技術政策総合研究所 研究総務官
丸井 敦尚	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 総括研究主幹
山本 徳洋	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（JAEA）核燃料サイクル工学研究所 所長
小林 正彦	（株）東芝 原子力事業部 技監
石渡 雅幸	日立GEニュークリア・エナジー（株）シニアプロジェクトマネージャ
井尻 裕二	（一社）日本建設業連合会 電力対策特別委員会 委員（鎌田委員代理）
有馬 博	東京電力（株） 福島第一廃炉推進カンパニー・バイスプレジデント（増田委員代理）
松本 純	東京電力（株） 福島第一廃炉推進カンパニー・バイスプレジデント
田中 繁広	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
平井 裕秀	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
吉田 延雄	原子力災害対策本部 廃炉・汚染水対策チーム事務局長補佐
規制当局：熊谷 直樹	原子力規制庁 管理官補佐（山田委員代理）
オブザーバー：西田 亮三	文部科学省研究開発局 原子力課長 放射性廃棄物企画室長（増子オブザーバー代理）
田中 里佳	国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課 課長補佐（五十嵐オブザーバー代理）
高村 裕平	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 放射性物質汚染対処技術総括官付参事官（山本オブザーバー代理）
今津 雅紀	原子力損害賠償・廃炉等支援機構 技術グループ審議役
及川 清志	技術研究組合国際廃炉研究開発機構 理事

議題：

- （1）福島第一原子力発電所の最近の状況
- （2）汚染水処理対策の進捗状況・リスクマップ
- （3）タスクフォースの検討状況
 - ・陸側遮水壁タスクフォース
 - ・高性能多核種除去設備タスクフォース
 - ・トリチウム水タスクフォース
- （4）その他報告事項
 - ・「中長期ロードマップ」の改訂
 - ・IAEA専門家派遣

議 事：

<冒頭着座風景カメラ撮り>

- 福島第一原発における最近の状況、汚染水対策の進捗に伴うリスク低減状況、各タスクフォースの進捗等の報告、議論が行われた。
- 引き続き、汚染水処理対策委員会において、汚染水対策の進捗状況の報告を行うことが確認された。

概要は以下のとおり。

○資料1を用いて、福島第一原発の最近の状況について東京電力より説明があった。

○以上の説明の後、以下の意見や回答があった。

- ・タンクに起因する敷地境界実効線量（評価値）が、2015年3月末に「1mSv/年未満」に到達したとのことだが、今後の推移の見通し如何。
→ストロンチウム処理水等のさらに浄化する必要があるものは、多核種除去設備にかけることにより、かなり線量が下がるため、タンクからの影響はほぼ0近くになると考えている。廃棄物処理設備等により敷地境界実効線量が増えてくる部分もあるが、今年度末には1mSv/年以内を達成するよう取り組んでいく。

○資料2を用いて、汚染水処理対策の進捗状況・リスクマップ及びリスクの総点検について、東京電力より説明があった。

○以上の説明の後、以下の意見や回答があった。

- ・対策を実施する前に予測した解析結果と、対策実施後の実際の観測値を比較するなど検証を行うことが有効。
→解析モデルの検証については、規制委員会でも同様な指摘をいただいている。複数の対策の効果が重複しているため、一つの対策の効果を評価するのは難しいところがあるが、今後、検証してまいりたい。
- ・フローとしての地下水流入量と、ストックとしてのタンク容量の全体の関係を把握することも、リスクマップと同様に重要。
→参考2-3のP10にタンク容量や処理水等のストックを時系列で示している。
- ・地下水流入量はどの程度減ってきているのか。
→地下水バイパス等によって約80m³/日の地下水流入量の減少が確認されている。なお、タンクの残量は、昨年の中頃に比べると余裕があるように見えるが、2015年9月以降の線は、サブドレンや陸側遮水壁の稼働により汚染水の増加が抑制されることを想定したのになっていることから、実態に応じて、適宜見直していきたい。
- ・9月以降に流入量が減らなければ、あまり余裕がない状況。
- ・実績と想定は線を区別した方が分かりやすい。また、対策によって線の傾きは変わってくるため、複数のシナリオを想定すべき。
→実績に応じて適宜見直すとともに、将来予測については、いくつかのシナリオを想定することとしたい。

○資料3を用いて、各タスクフォースの検討状況について事務局より報告。

○参考資料を用いて、中長期ロードマップの改定、IAEAレビューミッションの概要について事務局より報告。

○その他、以下の発言があった。

- ・「汚染水処理対策技術検証事業」の実施状況はどうなっているのか。
→海水浄化、土壌浄化、タンク除染、無人ポーリングの4つの技術検証は昨年度末までに完了し、トリチウム分離技術については今年度末まで事業を継続するが、次回以降、状況を報告したい。

<閉会>